

令和7年度 第2回 民芸館運営協議会会議録

1 日時

令和8年2月13日（金）午後2時00分～午後3時30分

2 開催場所

平戸橋いこいの広場多目的室

3 出席者

〔委員〕

佐藤 一信、水野 半次郎、小山 幾子、釘宮 順子、近藤 善房、本多 謙二、内田 美穂子

（以上7名）

〔事務局〕

成瀬副部長、高橋博物館副館長、梅村民芸館長、北谷主査監、濱井主査、(株)技研サービス 三代

（以上6名）

4 会議の経過

- ・事務局から副部長のあいさつ、会長あいさつ、出席委員の報告（7名）を確認し、本会議が成立することを宣言した。
- ・議事録署名人として、会長を含む職務代理者の水野委員を指名した。傍聴人なし。

5 会議内容

事務局令和7年度の実績について

- ・資料1により、令和7年度12月末までの豊田市民芸館観覧者数、施設利用者総数、事業実績などについて事務局から説明した。

（意見、質問）

委員

- ・本多記念民芸の森のアート展や常設展の観覧者数の算出方法はどのようなか。来場者数に対して新緑ウィークでの3館スタンプラリーの参加者が少ないと思うが理由はあるか。スタンプラリーは参加者を増やす方法を考えた方がよいのではないか。

事務局

- ・民芸の森の観覧者数は田舎家と管理棟に入った人数をそれぞれ目視で算出している。アート展、コレクション展ともに田舎家と管理棟の2か所を使い展示をしているため、田舎家と管理棟の観覧者数の多い方の数字を算出している。常設展については狂言舞台や旧海老名三平邸も観覧できるため、民芸の森の入口に設置しているカウンターの数字を使用し算出している。

事務局

- ・スタンプラリーの参加者数は、3館を巡り景品を受け取った人数を掲載している。

委員

- ・資料1（別紙）「海のシルクロード 絣の道」実績報告によると、本展ではインターネット広告を利用しなかったとある。インターネット広告を利用しなかったことが原因で若い観覧者が少なかったということか。
- ・資料1 普及事業（1）講座について、講座参加者は継続受講者が多いのか。また、単発の体験講座の受講者はどのようなか。
- ・利用者増のために、指定管理者が「おにぎり弁当」の販売など工夫されているが効果はどうか。

事務局

- ・インターネット広告について、こういった媒体に広告を出すのかは展覧会の内容、個々の展覧会における予算の配分を考慮して検討している。絣展は主なターゲット層が比較的高年齢層ということもあり、紙を中心とした予算配分とした。
- ・連続講座、体験講座ともにリピーターが多く、今後どうやって新規の参加者を増やすには検討すべき課題と認識している。
- ・「おにぎり弁当」のような軽食提供による効果が十分あると認識している。館内で飲食サービスを提供することは、利用者の満足度向上に資する有効な事業と考えている。

委員

- ・各企画展観覧者の単館や3館パスポート利用しての観覧者数の割合はどのようなのか。

事務局

- ・手元に根拠資料はないが、全体の観覧者数における割合はそれほど多くないと認識している。ただ、民芸館でのパスポート販売についてはある程度実績があり、今後認知度が高まっていくことで割合も増えていくと考える。

委員

- ・自分の周りでは、3館パスポートを持っている人が増えている。3館パスポートを持っている人は美術館や博物館には行くが、民芸館にも来ているのか。

事務局

- ・3館パスポートを持っている方は民芸館へも来ていただいている印象である。
- ・観覧者の割合としては有料利用のパスポート利用者より、無料利用の70歳以上の人の方が多い。

委員

- ・事務局から実績報告のなかで「国際芸術祭あいち2026」において幅広い年齢層の参加があったこと、また今後の方向性について委員の意見を求められた。事務局としての意見はあるか。

事務局

- ・事業実績を踏まえて、今後開催を計画する展覧会の方向性やイベント、事業などについて助言を頂きたい。

委員

- ・「国際芸術祭あいち」は、以前、近代の産業とくらし発見館でも開催していた記憶がある。そのようなイベントを今後も開催し新たな利用者の獲得につながるとうい。

事務局

- ・「民芸」にとどまらず、幅を広げながら民芸を捉え直し、施設を利用して事業が出来ないかと考え、新たな試みとして「暮らしを彩る民芸講座」を開催する。
- ・利用者年齢層の幅を広げるため、30～40代にも興味を持って頂けるような事業を展開していきたい。

委員

- ・積極的に開催すべきである。
- ・博物館・美術館には若年層が多く来館している。そのような利用者にぜひ民芸館も利用して欲しいので、多彩な事業を実施して頂きたい。

委員

- ・愛知県陶磁美術館も同様の課題がある。来訪されない年齢層に対しての取組は難しい課題である。民芸館も同様に人が集う広場としての機能を持っている。一見、無関係な年齢層も呼び込んでいくことが重要だと考える。昨年、未就学児とその親を対象にイベントを開催した。隣接するモリコロパークが使用している算出根拠（車1台につき4人乗車）を参考に駐車場利用台数から当日の利用者を算出したところ、300人以上が陶磁美術館の広場を利用していたことになる。こういった事業が次に繋がっていくことを期待する。

(2) 令和8年度の事業について

- ・資料2により、令和8年度展覧会の予定を事務局から説明した。

委員

- ・「(仮) これからの豊田市民芸館優品展」の中で「新たなまなざしを感じさせる」とあるが、どういったことを意図しているのか。

事務局

- ・民芸作品というと色々考え方があがる。柳宗悦が主唱した民藝運動の認識もあるが、普通に民芸品というと、地方で手作りされたお土産品を含めた見方している人もいる。そういったものを区別し、本来の意味での民芸とは何かということを基本に、今生きている作家たちはどういった見方をしているのかも含めて紹介していきたい。

委員

- ・今回の「アーツ・アンド・クラフツと民芸」は他館から作品を借りた上での単独の企画なのか。

事務局

- ・2部構成としており、I部のアーツ・アンド・クラフツは借用資料を展示し、II部の民芸では民芸館の所蔵資料を展示することで、民芸館でしかできない展覧会を開催する。比較して観覧して頂く試みを考えている。

委員

- ・民芸の森は来年オープン10周年をむかえる。民芸の森では、狂言をはじめ色々な事業を行い集

客力を高めていくと思うが、民芸の森での10周年記念イベントについて考えを聞きたい。

事務局

- ・4月4日(土)には「平戸橋桜まつり2026」、5月24日(日)にもは「森の手ざわり2026」の開催を予定している。「森の手ざわり」では、本多静雄創作の狂言「三国山」の公演を予定しており、利用者に無料で観て頂く予定である。その他、民芸の森倶楽部が調整をしてジャンクレーション団体による骨董市が計画されている。

委員

- ・ジャンクレーション団体は岡崎を拠点とする団体である。骨董市や蚤の市で販売するような骨董などを収集している方のネットワークで、色々な団体に参加を呼び掛けている。現在、出展交渉をしている。

委員

- ・こどもの時にいいものに見たり触れたりする経験は心が豊かになると思っている。今回小学2年生が2回に分けて民芸の森を訪問したが、こどもたちが喜んで帰ってきた。学習の発表会に参観している保護者に伝わり、「行ってみようかな。」と、思ってもらえるとよい。
- ・小学3年生はすべての館の展覧会を観たので、その思い出を「かるた」にして遊んでいる。こどもたちが喜ぶようなイベントなどを考えて頂けるとよい。

事務局

- ・補足すると、青木小3年生の来館は、こどもたちの発意で実現したと聞いている。当日は、鈴木繁男展を案内したが、漆の絵付けに感激した児童がその週末に父母と一緒に再訪してくれた出来事を報告する。

委員

- ・市内小中学校は、美術館や博物館には定期的に利用していると思うが民芸館を利用することはあまりないと思う。美術館や博物館に近ければ、同じコースとして利用できるが、何か工夫ができるとよいと思う。

委員

- ・来館者に若年層が増えてきていると聞くと嬉しい。
- ・教育的な視点もあると思うが、民芸館では、単純に「作品を観る」のではなく、美学や思想を教え

るような役割を果たせるとよいと思う。

委員

- ・他市の小学校などの団体受け入れがあるが、どのようなきっかけで利用されたのか。
- ・今回の企画展について、杉本健吉や芹沢銈介がどういった人物なのか分かるものがあるとよい。
- ・民芸の森にある狂言舞台の鏡板を杉本健吉が描いていることも実はあまり知られていないので、知って頂く機会となるとよいと思う。

委員

- ・民芸に限らず常に発信していかないといけない。私たちが扱うものはやきもの（陶磁）だけだが、若い学芸員らは、来館している小学生が朝どのような食器で食事しているか把握していない。自館に現代の食卓が再現できる学芸員がいるかという危うさがある。最近の人はワンプレートで食べていると思っているが、皿すら使っていない可能性もある。食器棚に何があるか分からないのに「うつわ」の話をする危うさがある。知らないことが当たり前という意識で再スタートすべきである。家ではできなくても、体験できるということが大事になってくる。

委員

- ・平戸橋公園に桜を植え替えているが、記念植樹できる場所を作ってもらえるといい。

事務局

- ・今回は、都市整備部公園緑地課の樹木資源保全基金事業のなかで業者による植替えを実施した。
- ・今後、植替えていく中で記念植樹であるとか、次世代を担うこどもたちと一緒に植えていく取組も考えることができると思う。今回、桜の植替えを担当した公園緑地課とも連携して考えていきたい。

委員

- ・近隣学校の卒業記念で植えて頂けると良いと思う。

委員

以上で協議事項を終了する。

(3) 事務局から連絡

以上で第2回民芸館運営協議会を終了する。